高松市立古高松南小学校　体力向上プラン

【学校教育目標】

心豊かに　自ら考え行動できる児童の育成

【めざす児童像】　自ら考え行動できる子　仲よく助け合う子　体をきたえ元気な子

～かしこく・やさしく・元気よく～

【本校の現状と課題】

朝から運動場に出て元気よく遊ぶ児童が中学年に多くいて、体力つくりのイベントに参加する児童が低学年に多い一方で、高学年は外で遊ぶ児童が少ないこと、体力つくりのイベントに積極的に参加する児童が固定化されていることが現状と課題である。授業に対しては意欲的に取り組み、体力つくりイベントに参加する児童は低学年は多いが、高学年になると人数が減り運動に消極的になっている児童がいる。

①「新体力テストの数値分析の結果」より

○男女ともに立幅跳の記録が県平均より下回っている。

○男女ともに４～６年生の総合評価が県平均より上であり、運動が得意な児童が多い。

○昨年度２年生男子の総合評価のポイントが著しく低い｛(A＋B)－(D＋E)｝が-20.3%。

②「運動に対する意識・運動習慣」についての分析より

○苦手だから体を動かすことがあまり好きではない児童が多くいる。

【取組み】

年間計画の工夫

運動の機会を増やすために、授業での運動量を確保する。そのために、体育で使用する環境・場を体育部で準備し、十分な運動ができる時間を保障した年間計画を実施している。

また、「わたしたちの体育」を活用し、運動に対する場を子どもたちと共有することで、運動への積極性を高めたい。

運動意欲が低い児童へ

ボールが苦手な児童も安心して外遊びに取り組めるように、ドッジビーを全クラスに常備したり、低学年には、ソフトスポンジボールを配布したりする。水泳クラブを実施し、２５ｍを泳ぐことを目標にして、水泳が苦手な児童を重点的に指導できるような体制づくりや共通理解を図り、指導していきたい。

体力つくりの工夫

体育委員会主催で、遊具を活用した体力つくり「みなみっ子SASUKE」と「ナワトビチャレンジ」を秋から冬にかけて行う。また、体力つくりのイベントに高学年児童の参加を促すために、ペア学年での参加を呼びかける。また、参加人数を増やすために、体力つくりの課題と反省を体育委員会で確かめ、内容について話し合う時間を取る。

【目標】

○体育の授業の運動量を増やし、体育が好きで運動に積極的に取り組む児童を育成する。

○ルールや場を工夫し、苦手な種目でも楽しみながら運動に参加する児童を育成する。

○新体力テストの合計記録のさらなるレベルアップを目指す。